

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：2023年 2月 20日

事業所名：わくわくクラブジュニア（新越谷校）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	・個別対応しやすい個室を3部屋用意している	・運動の活動は引き続き広いスペースで行えるよう対応していく
	2	職員の配置数は適切である	8	0	・基準を1名以上多く配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	・絵や数字を用いて分かりやすい掲示を作成して表示している ・動線を分かりやすく配置	・情報のわかりやすさや必要な掲示物に関しては引き続き更新をしながら提示していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	0	・掃除、消毒には時間をかけ念入りに実施	・空気清浄機の活用などを引き続き継続して行う
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	・職員全員が参画出来ている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	・毎年行う評価表への意見を参考に改善を行っている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	・ホームページで公開をするとともに、内容をプリントして配布している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	8		・外部の第三者評価は行っていないが保護者と事業者自己評価表を生かし業務改善につなげている
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・年に2回以上研修を実施している	・引き続き外部研修にも積極的に参加して情報共有を行っていく
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	・半年ごとにアセスメントをおこないニーズや課題を聞き取っている	・聞き取った内容を計画に反映させて作成を心掛けており、今後も継続して実践していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	・成長の状況をチェックリストを使用し分析している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	・ガイドラインに基づいた項目から支援をしている ・個別の目標に合わせた課題を提供している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	・計画を全職員で共有し内容を把握した上で支援をしている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・会議でアイデアを出し合っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	・季節に合わせた活動や発達度合いに合わせ流動的に決定している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	7	1	・お子さんに合わせた活動を盛り込み計画作成をしている	・個別の目標の中に集団での活動も盛り込んで作成をしている ・年齢により小集団でのレッスンへ促すことも行っている

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・毎回打ち合わせを行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	・毎回振り返りを行っている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	・サービス提供票や日報に記載し、共有している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	・半年ごとのモニタリングを実施し、計画の更新を行っている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	・児童発達支援管理責任者が参加	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	・保健センター、相談支援センター、支援員との連携を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	8	・現時点で対象となる利用者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	8	・現時点で対象となる利用者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・保護者の希望に応じて在籍園と情報共有や連携を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	7	・保護者の希望に応じてサポート手帳を活用し学校への情報共有を行っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	・埼玉県による研修を説教的に受講している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	8		・個別支援が中心のため、現状行っていない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	7	・市の連絡会に参加している	・引き続き連携がとれるようにしていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	・支援後に当日の様子をフィードバックしている ・適宜相談の場を作り共通理解を図っている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	8		・実施の希望はあるため、開催出来るようスタッフのスキルアップを図っていく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・契約時に行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	・説明をおこない同意を得て発行をしている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・教室だよりやブログの更新	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	・わくわくカフェ、懇談会 保護者セミナーの実施	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	・いつでも応じられるよう 周知や声かけをおこない 対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・教室だよりやブログの更新	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	・十分注意して 取り扱っている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・絵カードの使用や構造化で 分かりやすく環境を 整えている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8		・コロナ禍のため難しいが 機会を作れるよう検討していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	・マニュアルは策定され スタッフへ周知している	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	・年長児には避難訓練を 実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0		・成長歴や病歴の聞き取りは継続して 行っていく ・日常の体調や体温の記録も依頼している
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0		・食事提供はおこなっていない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	・事例を記録し、共有と 保管をしている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	・年に1回研修を全員で 受講している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	・契約時に説明はするが 基本的に身体拘束は 行わない	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。